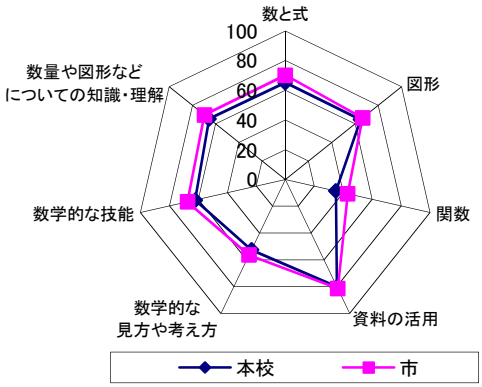
宇都宮市立瑞穂野中学校 第３学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	65.2	70.1
	図形	64.7	66.4
	関数	34.8	43.0
	資料の活用	80.1	81.4
観点別	数学的な見方や考え方	52.5	56.4
	数学的な技能	62.3	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	65.5	69.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	全体的に宇都宮市の平均正答率より低い。特に平方根の乗法で平方因数を根号の外に出す変形に関する問題では平均正答率44.4%と低く、理解が不十分である。多項式と単項式の乗法の問題の平均正答率は83.3%であり、宇都宮市の平均正答率を上回っている。	平方根の意味や表し方の理解を深めることが大切である。問題演習を増やし、平方根の計算や変形の仕方を身につけさせる必要がある。
図形	全体的に宇都宮市の平均正答率とほぼ同じである。その中でも二等辺三角形や平行四辺形の性質を用いて、角度を求める問題については、それぞれ、81.9%、84.7%と宇都宮市の平均正答率を上回っている。相似な図形に関する問題では平均正答率が56.9%と宇都宮市の平均正答率よりも低く、理解が不十分である。	相似な図形の問題については、まず相似比に関する問題が理解しやすいので繰り返し演習し定着させる必要がある。さらに証明の流れについては、パターンを反復しながら定着を図っていく必要がある。
関数	全体的に宇都宮市の平均正答率より低い。２乗に比例する関数のグラフの読み取りは79.2%と宇都宮市の平均正答率より高いが、制動距離の問題では2乗に比例する関数との理解が不十分であり、平均正答率が非常に低い。	２乗に比例する関数の利用の問題に重点を置いて指導する必要がある。関数に限らず、どの領域においても利用の問題を苦手とする生徒が多いため、様々なパターンの問題を丁寧に取扱い、十分な理解を今後も促していく必要がある。
資料の活用	全体的に宇都宮市の平均正答率とほぼ同じである。確率の問題は他の領域に比べ、平均正答率が安定しており、理解されていると考えられる。	確率の基本をしっかり定着させた上で利用の問題を扱い、丁寧な問題演習を繰り返し理解させる必要がある。